

成田市教育委員会会議事録

令和4年9月成田市教育委員会会議定例会

期 日 令和4年9月27日 開会：午後3時00分 閉会：午後4時34分

会 場 成田市役所3階第二応接室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗
委 員	岡 本 秀 彦
委 員	日 暮 美智子

出席職員

教育部長	堀 越 正 宏
教育部担当次長	小 川 雅 彦
教育総務課長	伊 藤 真理子
学校施設課長	越 川 房 邦
学校施設課主幹	小 川 勝
学務課長	林 英 樹
教育指導課長	廣 田 一 利
教育指導課指導主事	成 毛 典 子
生涯学習課長	野 村 貴 子
学校給食センター所長	鈴 木 孝
公民館長	大 隅 光 夫
図書館館長補佐	米 田 涉
保育課長	宮 崎 恵美子
保育課主幹	多 田 恵美子
保育課係長	北 見 健太郎

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言
2. 署名委員の指名 岡本委員、日暮委員
3. 前回議事録の承認
4. 教育長報告

主催事業等

○8月29日 令和4年度成田市中学校全国・関東大会出場選手報告会について

今年度は例年になく各種競技等で全国や関東の大会に参加した中学生が多く、この日の報告会には24名が参加しました。そのため、これまでのように庁議室で行うには狭すぎるため、急遽大会議室で実施しました。驚いたのはスノーボードや馬術、空手、野球、卓球、陸上競技、柔道、弓道、放送といった具合に、大変広範囲に活躍している中学生がいるということです。素晴らしいことだと思います。

市議会

○9月 2日～9月29日 令和4年9月定例会について

今議会では、議案第1号として、佐藤勲教育委員の再任案を提案しており、一般質問最終日にこの人事案件を本会議で先議し、全会一致で同意されました。佐藤委員におかれましては教育委員第3期目となりますが、今後も引き続き教育長職務代理者としてご協力いただきますよう改めてお願い申し上げます。

なお、今回の議会の一般質問は、当初22名の議員から寄せられました。このうち、教育委員会関係では12名。特に回答に苦慮する内容はございませんでしたが、学校部活動の地域移行の問題については、正直、一番戸惑っているのが学校です。元々は教職員の働き方改革から端を発した問題であると思うのですが、肝心の子どもの心を置きざりにした議論の展開で、まずは土、日の部活動を地域の指導者で行うようにし、やがてすべての部活動を学校から地域に移行

していくという内容で、来年度から3年間の期間でというタイムスケジュールも示されています。しかし、具体的な問題の解決はすべて各市町に投げられているのが実情です。加えて、地域指導者として部活の指導を学校の他に地域でもやってみたいという教員については、兼業も認めるという内容も含まれています。しかし、これでは教員を現状よりさらに厳しい環境に追い込むことになりはしないか、何のための働き方改革か、と懸念します。地域に移行するなら、土、日、祝日については、教員は一切のかかわりを持たないようにするのが本来の在り方ではないのか。学校で指導している子を地域でも指導することになれば、現状の部活と何ら変わりはないのです。最終的に目指す姿を明示しなければ、そこに到達するための方策も浮かんできません。なかなか難しい問題です。

○9月13日 教育民生常任委員会

常任委員会では教育委員会から提案している「市有財産の取得について(大型ディスプレイ)」の案件の他、令和4年度介護保険特別会計補正予算第1号の2議案について審議し、両議案とも全会一致で可決すべきものと決しました。その後、教育委員会からは「成田小学校建替え基本構想の策定について」報告をいたしました。

○9月20日～22日 決算特別委員会

一般会計歳入歳出決算他8議案について特別委委員会で集中審議され、全議案とも全会一致もしくは賛成多数で可決及び認定すべきものと決しました。

その他

○8月23日 成田市学校栄養士研修会について

市内4か所の給食センター、5つの共同調理場に勤務する栄養教諭や栄養士の方々が一堂に会し、それぞれの調理場の実情や課題について意見を述べ合う私との意見交換会が開かれました。栄養士研修会という名目ですが、そもそも一人職である栄養士の皆さんの職務を教育委員会の責任者である私が正しく理解し、今後もより良い学校給食を継続することを目指して始めた研修会です。この日も、それぞれの調理場が抱える問題についてざっくばらんに披露していただきました。その中で特に気になったのは、4か所の給食センター調理場の全てにエアコンが設置されていないこと。そのため、夏場は高温多湿の中で調理員さん方が大変なご苦勞をされているという実態です。これらの調理場の新設はまだ先のことであり、何らかの暑さ対策をしなければ、今後、働き手を失う結果になるかもしれないという、厳しい現状です。次年度は何

らかの手立てを講じられるよう努めたいと思いました。

○8月24日 千葉県教育庁北総教育事務所との令和4年度末人事異動構想情報交換について
教育事務所管理課長に、今年度末の教職員管理職の人事に関するヒアリングをしていただきました。本市では今年度末に定年を迎える管理職は、小学校で教頭1名、中学校で校長3名と教頭1名の計5名となります。ここ数年では比較的少ない人数となります。したがって新しく管理職に入る方は5名となるはずですが、ここに県や市の行政関係の異動や、他市町への異動等も含まれますので実際にはもう少し多い人数の新管理職が生まれるものと考えています。管理職次第で学校職員の意欲や雰囲気は違ってきますので、より良い人材の配置に努めたいと思います。

○8月29日 臨時校長会議について

9月からの新学期に備え、コロナ対策や生徒指導面での配慮事項などを伝えるために臨時の校長会議を実施しました。コロナ禍であっても、学校行事は対策を施してきちんと実施することを前提に、くれぐれも子どもや教員の意欲を欠くことのないように努めていただくことをしっかりと伝えてまいりました。「実りの秋」を迎えます。教職員は一人ひとりの子どもに心を寄せ、それぞれを伸ばしていける学校であってほしいと願っています。

○9月10日 令和4年度印旛郡市社会教育振興大会について

四街道市文化センターでこの振興大会が開催されました。私のほか、3名の教育委員の皆様がご出席されましたのであえてご報告はしなくても良いかと思いますが、今回は本市の生涯学習課が提案するというので、その応援も兼ねて参加させて頂きました。委員の皆様から何かご感想があれば、後程お聞きしたいと思います。

○9月12日 叙勲伝達について

本市の名木小学校の校長を最後に定年退職された、神崎町にお住いの大木光男先生に高齢者叙勲をお渡ししてまいりました。残念ながら大木先生ご自身は現在施設に入居されているということで、ご家族の方にお渡しいたしました。大木先生は私が小学生の時、小御門小学校の教諭で、担任ではありませんでしたが、体操の大会に備えてその指導をしてくださいました。当時、木造校舎で体育館はなく、狭い講堂があっただけの学校でしたので、長い廊下は跳び箱の助走に使い、廊下の先においた跳び箱を何度も跳んだり、高鉄棒は校庭の隅にしかなく、室内では練

習できなかった思い出もあります。私の個人的な思い出もあって、是非ともお会いして勲章をお渡ししたかった先生でした。

○9月14日 令和4年度千葉県教育庁北総教育事務所所長等訪問について

本城小・三里塚小(9/14)、吾妻小・向台小(9/15)

今年度の教育事務所管理課による学校訪問に私が参加するのは今回が初めてでした。訪問の最初に校長先生の学校経営説明があるのですが、それを伺っていると、それぞれの校長先生のお人柄や学校経営に対する思いが伝わってくるものです。設定された時間通りに説明を終える方、時間に関係なく長々と話す方、話にまとまりを欠く方等々、様々でした。子どもたちもそれぞれの学校の特性がよく出ているように感じられました。教育委員の皆様もそれぞれのご都合に合わせてご参加していただいておりますので、何かお感じになることがおありでしたらこの後お話ししていただければ幸いです。

○9月16日 台湾・桃園市行政訪問団表敬訪問について

友好姉妹都市である台湾の桃園市から副市長である高安邦氏をはじめ、来年桃園市で開催される世界客家博覧会専門オフィスのメンバーや運営に携わる方など、計6名が表敬訪問されました。高安邦副市長は、前回2016年に訪日された時には教育局の局長さんで、私も個人的に何度か話をしましたし、一緒にお酒を飲んだ方でしたので大変懐かしく感じました。

○9月17日 第9回成田伝統芸能まつり秋の陣について

伝統芸能祭りは、今年度から「春の陣」を開催したところですが、「秋の陣」では、県外からも8団体の方々に参加していただき、賑やかに開催することができました。2日間の開催でした。2日目の雨が少し残念でしたが、久しぶりに参道に賑やかさが戻ったのではないのでしょうか。

○9月20日 叙位伝達について

市内の小中学校で校長を務められた3人の先生方がお亡くなりになり、それぞれのご家族に叙位、もしくは叙位叙勲をお届けしてまいりました。市内新駒井野にお住いで、中台小学校長で定年退職された椎名武男先生、香取市油田にお住いで、津富浦小学校長で定年退職された石井榮先生、市内赤荻にお住いで、豊住中学校長で定年退職された大木稔美先生の3人の方々です。大木先生には昨年、高齢者叙勲をお届けしたばかりでした。

叙位の伝達に何うと、ご遺族の方の思いがしみじみと伝わってきます。人は、いつかは、必ず亡くなる運命にあります。だからこそ生きている今、為すべきことを思い残すことなくやり遂げる日々でありたいと思います。

○9月26日 公益財団法人印旛郡市文化財センター第115回理事会（臨時）について

臨時の理事会を開催した目的は、次年度から大規模事業が入ってくるため、現状の文化財センターの人員では到底カバーしきれない状況になることが予想されるため、管内各市町に印旛郡市文化財センターに派遣する人員の増員をお願いしたい、とのことでした。本市からの派遣は本年度からそれまでの2名を1名に減員しておりますが、次年度以降はこうした管内の状況を踏まえ、何らかの協力をしなければならないものと考えております。しかしながら、本市においても学芸員資格を持った職員の採用がままならない中、文化財センターに新たな増員を送ることはなかなか厳しい状況です。

○9月26日 令和4年度千葉県教育庁北総教育事務所指導室訪問について

久住小

久住小で北総教育事務所指導室の学校訪問がありました。教員にとって詳細な指導案をつくらせて授業展開をする経験は、年に何度もあるわけではありません。そのため、授業者はその指導案作りに相応の時間をかけます。この日の授業にもその苦労の後が感じられました。ただ、子どもと教師の関係は指導案の良し悪しではなく、日常生活全般を通じた人間関係づくりがうまくいっているかどうか大切です。子どもがどんな目で教師を見つめているか、私は学校訪問の際は、教室の前から子どもたちの顔を見るようにしています。良い関係ができている教室は、先生の無駄な言動がなく、子どもたちの視線も乱れずに教師や友達に向けられます。学校の教師は本当に難しい仕事だなあと、学校を訪問するたび感じます。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：社会教育振興大会での成田市生涯学習課の発表は大変でした。お疲れ様でした。とてもよくまとまっていたと思います。講演もなかなか内容が良く、行って良かったなと思っています。その発表の中で、国際福祉医療大学の学生さんの無償でお手伝いいただいているということについて、無償でということだけでなく、何らかの気持ちを差し上げられるようにして行きたいなというふうに思いました。

それから、学校訪問に行きまして、まだ中学校は西中学校だけですけれども、掃除が行き届いている印象を受けました。また、授業を見まして、言葉遣いがみんな丁寧で西中学校はこんなに言葉づかいが丁寧だったのかなと思うような嬉しい誤算です。富里から赴任してこられた先生が、若いのですが、いい先生が来たなという印象で、校長先生にもお伝えしておきました。また、学校経営の中でICTを会議などでうまく利用していて、職員会議でもペーパーレス化を図るなど、挑戦的に教頭先生と校長先生が取り組まれていました。夏休みの宿題も一気に出すのではなくて、2週間に1回ずつ配信すると子どもたちもやりやすいかななど、いろいろ工夫なさっていると感じました。それと感心したのは、夏時間というのでしょうか。朝2時間、7時から9時まで部活をやっけてしまい、少しずつスライドさせて、放課後の部活は無しにして、そのそうすると、職員も一定時間に帰れるというような、いろいろ伺っていて、働き方改革や会議の省力化という点で工夫している様子がとてもよく伺えました。

片岡委員：社会教育振興大会に私も出させていただいて、成田市の生涯学習課の発表はとても良かったと思います。私も放課後子ども教室に関わらせていただいて、大学生が公津の杜には結構来てくれているという話を聞いていて、私が今、手伝いに行っている加良部小学校では、今度、大学生を呼びたいという話が出ていますが、交通費が出ないというところと、大学から加良部に来る時に、自転車を持っていれば自転車で来るかもしれないのですが、お天気次第で来られないこともあり、交通の便はどうやって来るのかを気にしていました。ですので、佐藤委員も言われていたように、交通費くらいは出してあげたいなという気持ちでおります。もし予算が付けられるようでしたらお願いしたいと思います。

それから、社会教育振興大会の講演では、神社の神主もされている元NHKのアナウンサーの話で、命をつなげる、繋がりということをも日本人がだんだん忘れかけてきている部分だよ、という話が印象に残っています。

それと、北総教育事務所の所長訪問など、何回か行かせていただいていて、9月7日の神宮寺小学校で初めて所長にお会いしました。女性の所長で、話を聞いていると芯の強さが伝わって来て、話し方などには女性ならではの気持ちが伝わって来る方でした。

他には、加良部小学校、本城小学校、三里塚小学校に行かせていただいて、課題が学校それぞれにあるなというところを見させて頂いたり、タブレットを子どもたちが使いこなしていたり、先生方が一生懸命で、英語の授業でのタブレットとの連携など、と

でも活用されている印象でした。

9月13日に吾妻中学校に行かせていただいた時に印象に残った授業が3年生の社会科の授業だったのですが、内容が男女平等のことや働き方などについて、この問題に対して賛成の人と反対の人が向き合っている状態で、これはこうだから賛成ですなどの意見を聞き合うような授業だったのですけれども、子どもたちが鋭い意見を言っているなということや、しっかりしていると感じましたし、黒板を見て写して行く授業ではなく、アクティブラーニングといった、お互いの意見を言い合う、聞き合う授業はとてもいいなと思いました。

岡本委員：先ほどの大学生ボランティアの話で、私が大学でボランティア室長を務めている関係での話になります。ボランティアはおっしゃる通りお金はいらないのですが、交通費をいただくとありがたいのは確かです。自転車でいくとなると事故などの心配がありますので、できればバスの交通費などを出していただくと大変ありがたいなと思います。ただボランティアがコロナのせいで少なくなっていて、ボランティアをしたい学生が減ってしまって、ボランティア室の活動が鈍っている状況です。なので、成田市からのお話があると、とても嬉しいです。事前のチェックはしていても行ってみるとボランティアの受け入れ先としては疑問を感じる団体もありますので、信頼のおける成田市からの依頼はすごくありがたく、これからもよろしく願いいたします。

関川教育長：ありがとうございます。ぜひ各学校で何かありましたらお願いいたします。

日暮委員：まず社会教育振興大会につきましては、市役所からバスで現地まで乗せて行っていただいて、とても助かりました。色々ご手配ありがとうございました。成田市の生涯学習課からの提案の方もコンパクトにまとめられて、こういう事をやっているというのがわかってよかったです。それから、元NHKアナウンサーの宮田氏の講話も非常に内面的に心に染みるものがございました。しかしながら、聞きに来ている方々が結構年齢的に高い方も多くなってきていて、そうすると講話の長さが気になったところです。持ち回りで今年度は四街道市が中心で開催していて、いずれ成田市にも回ってくるのかなと思いますが、終わりに、講演の構成が良かったのかななどをチェック入れるだけの簡単なアンケートで良いので取ると次の年に繋げられると思いますので、考慮に入れていただけたらと思いました。

それから、学校訪問ですが、中台小学校が改修ということで、プレハブ校舎にちょうどなったところでしたが、子どもたちはとても落ち着いて授業を受けておりました。八生小学校の方は、もうきれいな校舎になっていて、子どもたちは少人数できれいな環境の中で授業を受けており、環境はすごく大事なことだということに思いました。

また、校長先生からの学校説明を聞く機会に入らせていただくことができ、そこで経営方針であったり、思いであったりを聞くことができたほか、特色ある活動をやられていることがよくわかって、学校がすごく頑張ってもらってるなあと感じました。学校全体で取り組んでいることがあり、八生小学校は短作文をどの学年も1か月に1回くらい、パソコンではなく自分の手で書いたものを廊下にきれいに掲示してあって、それがとてもいいなと思いましたし、中台小学校では学習規律について、机上の学習用具なども筆箱を出さないとか、鉛筆だけ出すとか、そういう学校全体で共通理解して、教育活動がきちんとされているのを感じることができて良かったと思います。また、この後も何回か行かせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第3号及び議案第4号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。

議案第1号「令和4年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（案）について」

伊藤教育総務課長：

教育委員会表彰につきましては、「成田市教育委員会教育功労者表彰規則」に基づき、本市における教育、学術又は文化の振興に関し、特に功績の顕著であった個人又は団体に対して教育委員会が表彰を行うことになっております。

表彰者の決定に際しては、同規則第9条により教育委員会の議決を経て決定することとなっておりますので、関係各課より報告を受けた表彰予定者をもって決定してよろしいかお伺いするものであります。

はじめに「功労彰」の表彰予定者としましては、6名でございます。吉岡秀樹様は、教育委

員会が委嘱する非常勤特別職のうち、文化財審議委員会委員として、京増芳則様は、学校給食センター運営委員会委員として、それぞれ10年の事績が功労彰の対象となっております。また、太田不二雄様、川島明様、平野憲朗様は、学校医として、田中和典様は、学校歯科医として、それぞれ20年の事績が功労彰の対象となったものです。

次に「功績彰」の表彰予定者は、個人15名と団体1チームの計16件でございます。こちらの方々は、文化活動やスポーツ活動において、公的機関等の主催する大会で、小・中学生では、全国大会入賞、高校生・一般では、全国大会3位以内の入賞と、特に優秀な成績を残された方や、市の教育振興に尽力し、その功績が多大であった方であります。

以上、「功労彰」と「功績彰」、合計22の個人・団体を推薦させていただきます。

続きまして、表彰式における表彰の対象ではありませんが、内規により担当課において表彰いたします「感謝状」及び「奨励賞」でございます。感謝状の対象者としましては、教育委員会が委嘱する非常勤特別職として8年以上の事績による方が2名、奨励賞の対象者としましては、文化活動やスポーツ活動において、公的機関等の主催する大会で、県大会での優勝や全国大会出場の事績を残された個人14名と、団体2チームの計16件となっております。

なお、今後のスケジュールとして、10月3日に市表彰審査委員会へ諮問、10月27日に庁議へ報告を行います。その日程の都合上、今回の議案提案時期が表彰式の約2か月前でありますことから、今後、表彰式までの間に開催される各種大会等において優秀な成績を残され、新たに推薦を受ける場合もございますので、その場合は追加議案として提案させていただきます。

また、本年度の成田市表彰式は、11月16日の午前中に市役所大会議室にて、開催を予定しております。詳細が決まり次第、改めてご案内させていただきますので、委員の皆様のご出席をお願いいたします。

《議案第1号に対する質疑》

特になし

関川教育長：特になさいますので、議案第1号「令和4年度成田市教育委員会功労彰・功績彰

表彰者（案）について」を採決いたします。

本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

議案第2号「令和4年度第1回成田市総合教育会議の開催について」

伊藤教育総務課長：

総合教育会議は、平成26年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成27年度から設置が義務付けられた「市長が招集する会議」で、本年度は11月2日に第1回目の会議を予定しております。

本議案は、本年度の総合教育会議において市長と意見交換する議題を教育委員会案として決定し、市長と協議調整することについてお諮りするものです。

本年度の議題（案）といたしましては2件を考えております。

議題1「就学相談の現状とその充実に向けた課題について」であります。近年、小中学校入学前の就学相談が著しく増加しております。背景については現在分析を進めているところでありますが、保護者の教育的ニーズに寄り添った上での就学相談の充実を図るため、幼稚園、保育園、小学校の連携をはじめ、教育委員会だけでなく、関係部署との横断的な連携による業務の効率化や担当職員の増員など幅広い視点での協議が必要と考えております。そのため、本市における就学相談の現状とその充実に向けた課題について説明するとともに、諸課題の解決に向けて意見交換をしたいと考えております。

次に、議題2「学校部活動の地域移行について」であります。部活動を地域に移行することなど部活動改革の提言案がスポーツ庁や文化庁から示されたことを受け、学校における全ての部活動について、段階的に休日の活動を地域のスポーツ団体等に移行していくよう求められております。そのため、本市における学校部活動の地域移行に向けての進捗状況と課題について説明するとともに、意見交換をしたいと考えております。

本年度は、議題（案）を2点提案させていただきました。教育委員の皆様から取り上げるべき議題がありましたら、協議の中でご提案いただけますようお願いいたします。

《議案第2号に対する質疑》

佐藤委員：会議の時間を例年1時間半くらいみていたと思いますが、今回は1時間でしょうか。

伊藤教育総務課長：今回は1時間を予定しています。

佐藤委員：それは市長のスケジュールの関係で1時間になっているのでしょうか。

堀越教育部長：市長のスケジュールの関係と聞いております。

片岡委員：議題1の就学相談について、私も色々な意見を聞くことがあり、今、外国の方で相談したい方が多く、通訳がいらっしゃらないから相談しにくいですとか、学校にどういう風にアプローチしていったらいいのかわからない、どこに情報を取りに行ってもいいかわからないといった話を聞いたことがあります。そういう外国人の方々への対応については、この現状の中に入っているのでしょうか。

廣田教育指導課長：就学相談の主たる内容としましては、未就学のお子さんの対応についての提案を考えております。外国籍のお子さんについても触れることにはなろうかと考えています。

既に一学期の時点で昨年1年間の相談件数を上回るような事態となっており、現状、1名の指導主事にて担当しております。近年、私立幼稚園、保育園からの依頼が増加している状況で、なかなか手が回らないような状況となっております。

外国籍のお子さんや保護者の相談受け入れをどこで対応するかといった課題については、内部で協議して、提案資料の中に盛り込めるようであれば、市長部局の方とも連携しながら対応して行きたいと考えております。

林学務課長：外国籍で就学を希望され窓口に見えられた方には、現状でも丁寧に説明をしている状況でございます。

関川教育長：転入した時点で、必ず市民課から学務課を案内されて来ており、そこで必ず相談な

どを伺っていますので、全く何もしてないということはありません。それ以外の方がいらっしゃるかどうかわかりませんが、転入された方は必ず学務課の窓口に見えることになっています。そういった対応の結果、日本語の補助を必要とする場合は、教育指導課の方で日本語補助員を配置しているというのが実情です。

岡本委員：就学相談がそう急増した理由には、はっきりしたものがあるのでしょうか。すごく多いですね。

廣田教育指導課長：担当の方とも話をするのですが、分析はしているのですが、なかなかはっきりとした結論には至っていないような状況です。

岡本委員：原因がわからないと、なかなか対応策をとるのが難しいと思います。

廣田教育指導課長：発達障害を疑われる例が多く、心配する保護者からの相談が急増しているという背景があると考えます。先ほどの教育長のお話にもありました通り、転入だけではなく、小学校入学後に通常学級に在籍すべきか、特別支援学級に在籍すべきかといった悩みが必然的に増えてきているのではないかと認識しております。

片岡委員：関連して、健康増進課が実施している健康相談などで発達のことわかりますけれども、そこでは就学の相談には乗れないですね。健康のことから一歩進んでいますので。幼稚園や保育園に上がって、その後どのように進学していくかといった話は、健康増進課では担当業務の範疇を超えているため、教育委員会などへの相談を案内されます。就学や発達のことについて、健康増進課と連携して情報共有するといったことができないのかなと思います。

廣田教育指導課長：ケースバイケースになるかとは思いますが、例えば機能障害的なものについては、健康増進課とも連携しながら対応を協議しておりますし、それ以外の例では弱視ですとかの相談については、県立の特別支援学校とも連携しながら対応を協議したり、橋渡しのようなやりとりも、担当の指導主事1名が行っている状況です。また、小学校入学前の就学時健康診断時に学力検査を行っておりますので、そういった機会を通じて保護者とも個別に関わりを持っております。

関川教育長：市長部局を交えての会議ということで、指導主事が1人でやっておりますので、私どもはぜひ増員させていただきたい旨をお話させていただこうと思っているところです。

関川教育長：その他、何かございますか。

特にないようですので、議案第2号「令和4年度第1回成田市総合教育会議の開催について」を採決いたします。

本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

《これより非公開》

議案第3号「市有財産の取得について（久住小学校プレハブ校舎及び児童ホーム）」

越川学校施設課長：

本案は、久住小学校における教室不足及び児童ホームの利用希望者の増加に対応するため、プレハブ校舎と児童ホームを一体的にリース方式により整備するものであります。

契約につきましては、電子入札システムを利用した制限付き一般競争入札を行いましたところ、3者からの入札があり、立川ハウス工業株式会社千葉営業所が1億3,728万円で落札いたしました。このことから、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定によりまして、議会の議決を求めるよう市長に申し入れるものでございます。

続きまして、校舎及び児童ホームの概要についてご説明申し上げます。取得する校舎及び児童ホームは、鉄骨造2階建て、延床面積は455.03平方メートル程度で、1階は普通教室2教室と昇降口及びトイレなどを整備いたします。また、2階は児童ホームでプレイルーム、事務室、静養室及びトイレなどを整備いたします。供用開始は令和5年4月1日を予定しております。

《議案第3号に対する質疑》

佐藤委員：これは建物だけではなくて、設備一切含めたものですか。

越川学校施設課長：こちらにつきましては、建物本体とそれに付属しますエアコンですとか、トイレの設備ですとか、そういったものを含めての借上げということになります。

佐藤委員：これ以上かかるものはないということですか。

越川学校施設課長：建物本体を借り上げて、その他の既存の電気を引いてきたりするのですが、その部分などについては、また別の工事で改修する形になります。

片岡委員：児童が増えていって、入りきらなくなったからという話だったのですが、今現在何人ぐらいでこの校舎や第一、第二児童ホームを使っていて、どれだけ足りないからこれを作ろうとしているのでしょうか。

越川学校施設課長：久住小学校の本年5月1日の児童数が497人となります。令和6年度がピークとなり508人。その後、減少傾向となり、令和10年度には372人と推計しております。

関川教育長：一時的に増える見込みということですか。では、児童ホームの方はいかがでしょうか。

宮崎保育課長：児童数が増えることに伴い、児童ホームの利用者も増えることが想定されます。現在定員を超えた受入れ等を行っておりますが、令和3年度当初の待機児童数が25名おりました。今年度は16名に減ったのですが、その待機児童を受入れするために、もう1ルーム増設をしたいと思っております。

岡本委員：資料の取得日が令和15年になっていますがどういうことでしょうか。

越川学校施設課長：今回10年リースをします。その10年が終わった後は無償譲渡を受けて

取得するのが令和15年ということになります。

岡本委員：令和5年から使えるようになるけれども、取得日は10年後ということですね。

それから、増築したり、プレハブを足したり、迷路のようになってよろしくないと思ったのですが、来年ぐらいがピークになって、その後の児童数は減っていくことが見込まれるのであれば、プレハブでもやむを得ないと思います。

関川教育長：その他、何かございますか。

特にないようですので、議案第3号「市有財産の取得について（久住小学校プレハブ校舎及び児童ホーム）」を採決いたします。

本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

議案第4号「成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について」

廣田教育指導課長：

本議案は、成田市心身障害児教育支援委員の任期が、令和4年9月30日をもって満了するため、成田市心身障害児教育支援委員会条例第3条第2項の規定により、新たに8名の委員を委嘱しようとするものです。

選出区分第1号の小中学校及び義務教育学校の学校医として、伊藤けい子、いとうこどもクリニック院長と白石優子、小田内科医院院長にお願いしたいと存じます。伊藤院長は、公津の杜小学校の学校医を務められていると共に、平成20年より本市の就学指導委員会委員を務めていただいております。小児科医としてのお立場から専門的な意見を常に頂戴しており、現在は会長として委員会をまとめていただいております。白石院長は、成田小学校の学校医を務められており、今年度の7月より委員を務めていただいております。小児科、アレルギー科をご専門とされ、豊富なご経験と知識を基に、小児科医としての専門的なご意見をいただいております。

選出区分第2号の小中学校及び義務教育学校の校長として、三里塚小学校の村田正志校長と大栄みらい学園の阿部光雄校長に引き続きお願いしたいと存じます。村田校長は、平成24年

から平成25年までの2年間、富里特別支援学校に教頭として在職され、地域の特別支援教育推進の中心的な役割を担われている学校で、進路指導や保護者の相談対応等にご尽力されました。続く平成26年から平成27年の2年間は、成田市教育委員会に在職され、教育センター所長として、心身障害児教育支援の総括を含めた業務を経験されております。特別支援学級の担任経験もあり、子どもや保護者の気持ちにも寄り添った助言をいただけるものと思います。阿部校長は、平成28年から平成29年の2年間、成田市教育委員会に在職され、教育センター所長として、心身障害児教育支援の総括を含めた業務を経験されており、現在は校長として児童生徒の就学指導に尽力されております。関係諸機関との連絡調整や保護者からの相談対応など、特別支援教育に関する豊富な経験と知識を有しており、小中一貫義務教育学校における特別支援教育の中心的存在として推進されております。

選出区分第3号の小中学校及び義務教育学校の特別支援学級担任教諭として、公津の杜小学校の吉村久美子教諭と公津の杜中学校の佐藤一利教諭にお願いしたいと考えます。吉村教諭は、通常学級や特別支援学級、ことばの教室担任として経験を積まれたのち、千葉県立の聾学校に勤務され、聴覚障害や発達障害のある児童生徒への支援やサテライト方式による地域支援を担当されました。続く平成28年から平成29年の2年間は成田市教育委員会に在職され、就学相談や特別支援教育の推進にご尽力されました。現在は公津の杜小学校の特別支援学級担任とともに、コーディネーターとしてご活躍されています。佐藤教諭は、北海道の特別支援学校に2校勤務されたのち、香取や富里など、多くの特別支援学校での勤務経験がございます。また、中学校でも特別支援学級の担任を経験されており、障害のある生徒の進路指導には、豊富な知見を基にした関わりを持たれております。現在は、公津の杜中学校で特別支援学級の担任に加え、コーディネーターとして、生徒の社会参加を見据えた支援や進路指導にご尽力されています。両名とも、特別な支援を要する児童生徒に対する幅広い知識と豊かな経験を有しており、当委員としてふさわしい人材であると考えます。学校や保護者の気持ちに寄り添った適切な助言をいただけるものと期待できます。

選出区分第4号に規定されている「識見を有する者」としては、香取特別支援学校の保科靖宏校長と栄特別支援学校の鈴木春雄校長にお願いしたいと考えます。保科校長は、令和元年より千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課で主幹兼特別支援学校整備室長として勤められた後、

昨年4月より香取特別支援学校の校長に赴任されました。教諭また教頭として千葉県立盲学校をはじめ香取・印旛・銚子特別支援学校など、多くの特別支援学校で特別支援教育に携われた経験はもとより、千葉県教育委員会の教職員課・特別支援教育課などでの行政経験もございます。障害者の進路・就労への識見や特別支援教育に関する豊富な経験と知識を生かされ、特別支援教育全般に渡る幅広い見地から、的確な助言をいただけるものと期待されます。鈴木校長は、現在の栄特別支援学校をはじめ、銚子・東金・飯高特別支援学校等、多くの特別支援学校での勤務経験がございます。千葉県教育委員会や成田市内の小学校での勤務経験もあり、関係諸機関との連絡調整や保護者からの相談対応など、特別支援教育に関する豊富な経験と知識を有され、障害者の進路・就労への識見、その保護者とのかかわり合い等、特別支援教育全般に渡る幅広い見地から、的確な助言をいただけるものと思います。

《議案第4号に対する質疑》

特になし

関川教育長：特にないようですので、議案第4号「成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について」を採決いたします。

本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

《非公開を解く》

議案第5号「GIGAスクール構想に対応した電子書籍サービスの開始に伴う成田市立図書館の管理及び運営に関する規則の改正について」

米田図書館館長補佐：

新型コロナウイルス感染症の拡大により非来館型サービスの需要が高まったことや、紙媒体の図書資料だけでなく多様なメディアの提供が求められるようになったことから、図書館では

令和3年8月1日から電子書籍サービスを開始しました。

また、市内小中学校及び義務教育学校においては、GIGAスクール構想に基づき、令和3年4月から児童生徒に1人1台ずつタブレット端末を配布しているところです。

国では、そのタブレット端末等のICT環境を活用した新しい学びを積極的に実施するよう各自治体に促しており、これを受けて、電子書籍サービスを導入している他の自治体、帯広市や東大阪市などでは、タブレット端末を使用して公立図書館の電子書籍サービスが利用できるように、児童生徒に対して電子書籍サービス用のID及びパスワードを一括で発行している事例が見られます。

本市においても、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等、教育の質を向上させることをねらいとするGIGAスクール構想のさらなる推進を目的として、市立図書館が提供している電子書籍サービスを児童生徒に配布されたタブレット端末で利用できるようにすることで学習活動の支援を行うため、成田市立図書館の管理及び運営に関する規則の一部を改正しようとするものです。

改正する内容としては、GIGAスクール構想に対応した電子書籍の利用を可能とする貸出し手続を簡略化するため、利用登録及び利用カードの交付に係る手続の一部を不要とする例外規定を追加するものです。

なお、児童生徒に発行する電子書籍サービス用のID・パスワードについては、成田市GIGAアカウントの命名規則に合わせ、児童生徒・教職員用のアカウント・パスワードと同一のものを電子書籍用ID・パスワードとして設定するものです。ID・パスワードは、小学1年生のタブレット貸与時に一括交付し、中学校卒業時に一括削除を行います。また、利用には電子書籍用アプリLibbyをインストールすることで、予約の連絡をメールではなく、アプリから通知がくるようにいたします。

《議案第5号に対する質疑》

片岡委員：子どもたちが自分たちのタブレット端末を使って書籍を借りられるということですか。

米田図書館館長補佐：そうなります。

片岡委員：何冊分までというきまりはあるのでしょうか。

米田図書館館長補佐：貸出しの規則は、現在通常の利用者の方に提供しているものと同じになりますので、3点まで2週間という形になります。

関川教育長：電子書籍に限ってということでございます。

岡本委員：成田市立図書館の電子書籍の利用には、Libbyというアプリを利用することになりますけれども、例えば、利用する子どもの学年に合わせて、小学3年生におすすめの本はこれですよとか、そういったメッセージのようなものをそのアプリを介して送ることはできるのでしょうか。

米田図書館館長補佐：このアプリケーションは、機能が既定化されていまして、あまり融通が利かないです。

岡本委員：各学年など、子どもの成長に合わせて、おすすめの本などが出せたらいいなと思ったのですがいかがでしょうか。

米田図書館館長補佐：一般の利用者が利用するアプリを使ってもらうため、学校向けだけに特化してしまうのは課題があります。ただ、子ども向けのページで特集を組めるので、利用しやすいようなおすすめ本の設定を考えていきたいと思っています。

岡本委員：小学3年生へのおすすめの本として出てきた画面をクリックして行くだけで、その本にたどり着いたら非常に楽だなと思います。本を探して苦労するようだと使いたくなくなってしまうこともありますので、そういう利便性も上げていただけたらありがたいと思います。

関川教育長：その他、何かございますか。

特にないようですので、議案第5号「GIGAスクール構想に対応した電子書籍サービスの開始に伴う成田市立図書館の管理及び運営に関する規則の改正について」を採決いたします。

本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

(2) 報告事項

報告事項第2号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により報告を受ける。

報告第1号「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について」

廣田教育指導課長：

本調査は、本年4月19日に小学校6年生と中学校3年生を対象に行われました。理科は平成24年度から追加され、3年に一度のサイクルで実施をしまいましたが、令和2年度に実施予定だったものが、新型コロナウイルスの蔓延で調査自体が中止となったため、本年度に実施する運びとなっております。

小学校の調査結果となります。国語につきましては、県・全国平均を上回っております。領域別で見ましても、5つの項目のうち、4つの項目で県・全国平均を上回っており、良好な結果が得られました。一方で「話すこと・聞くこと」の項目では、若干の課題がみられました。

算数につきましては、県・全国平均と同程度でした。領域別で見ますと4つの項目のうち、3つの項目で県・全国平均を上回っているか同等の結果が得られましたが、「数(すう)と計算」の領域で県・全国平均を下回りました。

理科につきましては、県・全国平均とほぼ同等の結果でした。領域別で見ますと「エネルギー」「粒子」の領域で課題が見られました。

つづいて中学校の調査結果をご覧ください。国語においては、県・全国平均を下回る結果となりましたが、そのような中でも、「書くこと」については今年も全国平均を上回り、毎年の如く良好な結果が得られています。一方で、小学校同様「話すこと・聞くこと」には課題が見られま

した。

数学においては、県・全国平均よりも3ポイント以上下回る結果となっており、中学校数学科の授業形態の改善が、相変わらずの課題となっています。特に、正答率が低かったという部分は注目すべき課題であり、成田市33.6%、千葉県45.6%、全国52.2%と全国の平均からも大きく下回った問題は、大問題1の「42を素因数分解する」という内容の出題でした。誤答例として目立ったのは「2、3、7」と積の形で書いていないものと、「1、2、3、14、21、42と42の約数」を書いたものでした。背景を考えると、現在の中学3年生は、入学直後に2か月間の臨時休校期間を強いられた学年であります。想像の域ではありますが、この「素因数分解」は前回の学習指導要領では中学3年生で履修する内容であったものが、現在の学習指導要領より中学1年生での履修に移行しました。その関係で、移行期間にあたる現在の中学3年生は、中学1年生時に別冊の教科書を用いて学習するといった異例の対応をしております。混乱した状況下で、きちんと取り扱われていない事も考えられますので、移行措置期間中に学ぶべき内容が確実に履修されているかを確認するよう、学校へ指示してまいります。

理科においては、全国平均とほぼ同等でありました。領域別でみますと、「粒子」の領域で若干上回りました。観点別では「思考・判断・表現」よりも「知識・技能」面で課題が見られました。

各教科の問題別に、全国平均と比較して正答率が高かったものと低かったものは、ここでは割愛させていただきますので、後程ご覧ください。

児童・生徒質問紙について、小学校、中学校、それぞれ75問中の質問から、「各教科の授業に関する質問」、「ICTの活用に関する質問」、「主体的・対話的で深い学びに関する質問」について、全国平均、経年比較した結果を抜粋して掲載しています。

小学校では、「各教科への興味・関心」と「授業の内容がよくわかるか」の質問について、肯定的に回答している児童が平成31年から減少傾向にあり、改善が必要です。中学校では、国語・数学への興味・関心は減少傾向にあるものの、3教科とも「授業の内容がよくわかるか」の質問について、肯定的に回答している生徒が増加しております。

ICTの活用については、小中ともに全国平均を大きく上回っており、各学校が積極的に授業に取り入れている結果が表れました。

また、各教科の正答率と質問紙との相関関係を表す結果については、割愛させていただきま
すので後程ご覧ください。

学校運営における質問紙の全国平均との比較については、小中学校共に学校質問紙の中で、
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や
可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行ったか」との質問に対して、全国平均より下回
る結果となりました。3教科とも、「先生から良いところを認めてもらえている」と思っている
児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる事から、積極的に子どもたちのよいところを認め・
励ますよう、校長会議等の機会を通して、学校に依頼してまいります。

最後に、今回の調査結果の活用については、各学校にて、特に誤答率が10%の項目に着目
し、誤答分析から授業改善に繋げてもらうよう、8月に開催した教務主任対象の研修会でも依
頼したところです。

また、成果を上げている学校の実践例を「教育センターだより」等を通して紹介したり、保護
者向けにリーフレットを作成する予定です。加えて、当課所管の学力向上推進委員会において、
基礎学力の向上を図る有効手段について協議の場を設けるなど、学力向上に有効な手立てを、
今後も検証してまいります。

《報告事項第1号に対する質疑》

岡本委員：小学校6年生だと数学はそこまで悪くないのに、中学校では数学だけが特に悪くな
ってしまっているように思います。

廣田教育指導課長：残念な結果になってしまいました。

岡本委員：ICTの活用なども進んでいるので、数学に強くなってほしいなあという思いがあ
るのですけれども、数学だけ特に中学生は悪くて、何か理由があるのですか。コロナと
いう理由も出ていましたけれど、全国との比較なので、成田市だけ学習の進みが遅かつ
たわけではないと思います。何かがあるのかなとは思いますが、考察というか、これが
怪しいとかあるでしょうか。

廣田教育指導課長：残念ながら、中学校の数学科の伸び悩みがここ数年来の本市の課題となっております。

岡本委員：去年もそうでしたね。

廣田教育指導課長：試行錯誤しながら各学校には取り組んでいただいております、去年も学力向上推進委員会の中で検証しているところですが、なかなか有効な手立てが見つけれない状況です。ただ、過去の工夫ある取組みなどは学校の方にフィードバックして共有しております。また、数学の授業が好きか嫌いかということに関しては、肯定的に回答している子どもたちが多いことが救いです。更にそれが身になるような指導のあり方について、今後も大いに検証していく必要があるかと認識しております。

岡本委員：そうですね。結構、数学の勉強が好きな学生はいますね。特に理科は結構好きな学生が多くて、いい傾向だなと思っているのですが、でも、成績が伸びないですね。

佐藤委員：西中学校を訪問した時に、タブレットを利用して方程式の初期の概念をうまく指導している先生がいらっしゃいました。ああいう形で教えていくと、方程式の考えが頭に入りやすくなって、だんだんその結果が出てくるかなという気はします。それから、自分の経験からすると、とにかく計算をどんどんやらせるという方法は、今やらないのかも知れないですけれども、今風ではない、スマートでないやり方もある面必要かなという気がします。自分の経験では、一度に100題ずつ解いていくというように腕力で数学をやって得意になったという記憶もありますので。また、タブレットなどを使うと、イメージとしては湧きやすいのですが、論理的に考えることは読書をすることで得られる力かなと思います。先ほどの図書館とも関連するのですが、タブレット利用と併せて、読書に関しても一緒に指導していく必要があるのかなと考えます。

片岡委員：毎年、学力の結果を見させていただいて、どうしてもできないところに目が行ってしまいがちですけれども、この生徒指導のところにもコメントがありました、生徒、一人ひとりの良い点、得意なところを伸ばしていく、苦手なところは丁寧に教えてあげるというのも大事ですし、現状で先生方は少人数制に分けて、レベルで分けていたり、でき

る子が分からない子に教えるようにしてみたりなど、いろいろ工夫してくださっているのですけれども、丁寧に褒めて伸ばすというか、子どもたちに向き合っていたきたいなと思います。できないところばかりに目を向けないようにしていただきたいなと思います。

廣田教育指導課長：粘り強く、よく関わりを持っていただくように、働きかけてまいります。

岡本委員：例えば、私が大学でのテストを実施した結果、平均点は変わってなくても、山のグループが上位の方であればよいですけれども、下位に山ができる場合がたまにあります。今回の結果に示されているのが平均点だけで、どういう分布かが示されていないのですが、そういう全く学習についていけないグループが、もしかしたら発生している可能性もあるのかなと危惧していて、そういうことがあれば底上げというか、どこかの段階でつまづいていると思うので、早めのサポートでキャッチアップさせてあげると改善していけるのかなと思ったりもします。

廣田教育指導課長：二極化の下位層を更に細かく分析するように取り組んでいきたいと思えます。

関川教育長：全体の分散の値などはわかるでしょうか。

成毛指導主事：データを確認すれば可能かもしれません。

関川教育長：平均値だけではなくて、今、岡本委員がおっしゃったように、分布の状況なども見て、指導のポイントをおさえることが必要だと思いますので、引き続きご指導よろしくをお願いします。

《これより非公開》

報告第2号「久住第三児童ホームの設置について」

越川学校施設課長：

児童ホームは、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対し、放課後等に適切な遊び及び生活の場を与え、児童の健全な育成を図る施設であります。

現在、久住及び久住第二児童ホームでは待機児童が発生しており、今後も久住小学校の児童数の増加に伴い児童ホームの利用希望者の増加が一定程度見込まれることから、久住小学校の仮設校舎の整備に併せて、児童ホームの整備を進めているところです。

久住第三児童ホームにつきましては、令和5年3月に完成することから、同年4月1日からの供用開始を予定しております。施設の概要につきましては、資料のとおり定員40人の施設を仮設校舎の2階に設置いたします。

《報告事項第2号に対する質疑》

片岡委員：4月からということですが、支援員の募集をかけていらっしゃるのですか。

宮崎保育課長：これから募集をして行きたいと思っております。

岡本委員：児童ホームが3つありますが、分け方は学年で分けているのでしょうか。

宮崎保育課長：学年ではなく均等に分けて、異学年が一緒の場で過ごすような形になっています。

関川教育長：他にご質問等がなければ、以上で報告事項を終わりといたします。

《非公開を解く》

6. 教育長閉会宣言